

科目名	国際関係法特講	担当者	ヤマモト 山本 リョウ 良	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	---------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>20世紀初めより開始された「戦争の違法化」により、今日の国際社会で許容される武力行使は、国連による制裁か、自衛権の行使に限定されている。いうまでもなく、国際紛争を武力により解決することも、認められない。もっとも、現実の国際関係は様々な暴力にあふれていることも事実である。さらに、冷戦の終結以降、非国家的主体による戦争に匹敵するような武力の行使が行われるようになったことも記憶に新しい。</p> <p>この国際関係法特講では、こうした国際社会の基本的構造とそれが直面する現代的課題について自ら調べ、検討することを目的としている。</p>		
到達目標	<p>1) 国際社会の基本的な構造、性格、特質などについての深い理解 2) 国際社会における武力行使の規制とその課題に関する深い理解 3) 国際紛争の平和的解決とその課題についての深い理解 4) 人権の国際的保障と残されている問題に関する深い理解</p>		
学修方法	<p>レポートを通じた学修は、課題に沿って作成し、教員のコメントなどを参考にして、修正を重ねて最終版としてまとめる。教員とのやりとりはmanabaを通じたコミュニケーションを前提とする。その際、シラバスに記載されたもの以外の参考文献も指示される場合がある。</p>		
スケジュール	<p>前期レポートは9月中旬、後期レポートは1月中旬である。したがって、以下のようなスケジュールが一応考えられる。</p> <p>前期：レポート課題(1)の草稿は7月末、課題(2)は8月末を目安に提出する。取り上げるテーマについては、草稿の執筆を開始する前にメールなどで相談することが望ましい。いずれの課題も、9月中旬までには最終稿を提出する。</p> <p>後期：レポート課題(1)の草稿は11月中旬、課題(2)は12月中旬を目安に提出する。取り上げるテーマについては、草稿の執筆を開始する前にメールなどで相談することが望ましい。いずれの課題も、2017年1月課題提出締切日までには最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	自らの意見が論理的に展開されているかどうか。また、教材以外の文献を渉猟してリサーチを行っているかどうか。脚注や参考文献リストは適切に書かれているかどうかを考慮する。
	平常評価	20%	レポートの草稿に対するコメントに関して、きちんと対応しているかどうかを考慮する。
履修者への要望	<p>教材としてあげた書籍はあくまで手がかりであり、自らリサーチしたり、指示された参考文献に目を通すことが強く求められる。また、安易なネットやウィキペディアの利用は、極力避けることが望ましい。その上で、あくまで自らの議論としてレポートをまとめることが求められる。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 松井芳郎 教材名： 『国際法から世界を見る（第3版）』（東信堂，2011年） ISBN:978-4-7989-0080-3 2,800円+税
	市民の目線にたち，国際法の構造と機能を平易に，しかし興味深く説く入門書である。
参考図書	小寺彰ほか 『講義国際法（第2版）』（有斐閣，2010年）ISBN:978-4-641-04653-5 4,300円+税 杉原高嶺ほか『現代国際法講義（第5版）』（有斐閣，2012年） ISBN:978-4-641-04656-6 4,200円+税 奥脇直也ほか『国際条約集』（有斐閣）ISBN:978-4-641-00142-8 ※なお、『国際条約集』は最新版を買わなくてもよい。『ポケット六法』などでもある程度は代替可能である。 小寺彰ほか 『国際法判例百選（第2版）』（有斐閣，2011年） ISBN:978-4-641-11504-0 2,476円+税
履修上のポイント	以下の点に留意して，レポートをまとめること。 (1)近代国際社会の基本的性格 (2)戦争の違法化の仕組み (3)現代の武力行使をめぐる問題点
レポート課題 1	国際社会の成立とその基本的特徴について，特徴的な点を取り上げて自分なりの議論を展開することが求められる。特に，近代国際社会の構成員が非ヨーロッパ諸国に対していかなる態度をとったか，また，第三世界諸国は先進国に対していかなる考えをもっているかが中心的な論点となる。4,000～5,000字程度でまとめることが求められる。 留意点： 国際法が元々ヨーロッパ的性格をもっていたことを理解する。
レポート課題 2	戦争の違法化の基本的なプロセスを理解しつつ，現代国際社会における暴力の蔓延をどのように理解すべきかに関して国連憲章の規定を参考に自分なりに議論し，4,000～5,000字程度でまとめることが求められる。 留意点： 例えば，国連憲章体制下における武力行使を如何に位置づけるかについて議論する。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 松井芳郎 教材名： 『国際法から世界を見る（第3番）』（東信堂，2011年）ISBN:978-4-7989-0080-3 2,800円+税
	市民の目線にたち，国際法の構造と機能を平易に，しかし興味深く説く入門書である。
参考図書	小寺彰ほか 『講義国際法（第2版）』（有斐閣，2010年）ISBN:978-4-641-04653-5 4,300円+税 杉原高嶺ほか『現代国際法講義（第5版）』（有斐閣，2012年） ISBN:978-4-641-04656-6 4,200円+税 奥脇直也ほか『国際条約集』（有斐閣）ISBN:978-4-641-00142-8 ※なお、『国際条約集』は最新版を買わなくてもよい。『ポケット六法』などでもある程度は代替可能である。 小寺彰ほか 『国際法判例百選（第2版）』（有斐閣，2011年） ISBN:978-4-641-11504-0 2,476円+税
履修上のポイント	以下の点に留意して，レポートをまとめる。 (1)国際社会における紛争解決のあり方 (2)人権の国際的保障の仕組みと問題点
レポート課題 1	国際紛争の平和的解決に関していかなる仕組みが存在し，いかなる問題点が存在するのかを4,000～5,000字程度でまとめることが求められる。 留意点： 国内社会と対比して，国際社会における紛争解決に特質を理解することが必要である。
レポート課題 2	人権の国際的保障の仕組みにはどのようなものがあり，どのような役割を果たし，どのような問題点を抱えているのかを4,000～5,000字程度でまとめることが求められる。 留意点： 世界の人権状況とそれに対する国際法規範による取組の実態に迫ることが必要である。